

四半期決算情報

本書はソシエテ ジェネラルが作成した英文資料の翻訳です。正確な内容については正文である英文の資料をお取り寄せの上、ご参照ください。
パリ、2013 年 11 月 7 日

2013 年第 3 四半期：堅固なグループの業績

- コア Tier 1 比率（バーゼル III 基準）：9.9%
- 業務粗利益：57 億ユーロ（前年同期比 14.3%増*）
事業収益は前年同期比 3.8%増*、3 つの中核事業による均衡のとれた寄与
- 経費削減策は大幅に進展：一度限りの変革費用 1 億 7,000 万ユーロに対して、2 億 6,000 万ユーロの削減を確保
- リスク引当比率⁽¹⁾：69bp と安定
- 計上されたグループ当期純利益：5 億 3,400 万ユーロ、前年同期の 6 倍
グループ当期純利益**：9 億 7,600 万ユーロ（前年同期比 14.3%増）
ROE**：8.5%
- ニューエッジ株の購入に向けた独占交渉を開始し、事業の見直しを継続

2013 年 1～9 月期：グループ当期純利益**：29 億 3,400 万ユーロ（前年同期比 4.3%増） 事業部門の営業総利益：前年同期比 10.5%増*

- 計上されたグループ当期純利益：19 億ユーロ（前年同期：13 億ユーロ）
- 経費率**は前年同期比で安定
- ROE**：8.6%
- 一株当たり利益⁽²⁾：2.12 ユーロ

* グループ編成変更および為替相場の変動による影響を除いたベース。

** 経済活動と関係ない項目（金融債務の再評価）、レガシー資産および経常外項目の控除後。財務情報の基準となる事項の第 8 項を参照。
国際会計基準（IAS）第 19 号（改訂版）の実施に伴い、前年度の数値が修正されたことから、2012 年度決算に係る項目は修正再表示されている。

(1) 訴訟問題および期初時点の資産に係るレガシー資産の控除後。リスク引当比率：2013 年第 2 四半期は 67bp、2012 年第 3 四半期は 71bp。

(2) 2013 年 1～9 月期における超劣後債および永久劣後債に係る税引後支払利息（それぞれ 1 億 9,000 万ユーロおよび 4,300 万ユーロ）の控除後。2013 年 9 月末時点の税引後キャピタルゲインおよび超劣後債の買戻しに係る未払い利息はゼロ。財務情報の基準となる事項の第 3 項を参照。

PRESS RELATIONS
LAETITIA MAUREL
+33(0)1 42 13 88 68
Laetitia.a.maurel@socgen.com

HELENE AGABRIEL
+33(0)1 41 45 98 33
Helene.agabriel@socgen.com

NATHALIE BOSCHAT
+33(0)1 42 14 83 21
Nathalie.boschat@socgen.com

ASTRID BRUNINI
+33(0)1 42 13 68 71
Astrid.brunini@socgen.com

ANTOINE LHERITIER
+33(0)1 42 13 68 99
Antoine.lheritier@socgen.com

SOCIÉTÉ GÉNÉRALE
COMM/PRS
75886 PARIS CEDEX 18
SOCIETEGENERALE.COM

A FRENCH CORPORATION WITH SHARE CAPITAL OF
EUR 998,320,373.75
552 120 222 RCS PARIS

2013年11月6日に開催されたソシエテ ジェネラルの取締役会において、当グループの2013年第3四半期および2013年1～9月期の決算が承認された。

2013年第3四半期の業務粗利益は57億2,800万ユーロ（前年同期比14.3%増*）、グループ当期純利益は5億3,400万ユーロ（前年同期の6倍）だった。経済活動と関係ない項目、経常外項目およびレガシー資産⁽¹⁾の修正再表示後では、第3四半期の業務粗利益は58億9,800万ユーロ、グループ当期純利益は9億7,600万ユーロとなり、ROEは8.5%**となった。

2013年1～9月期の業務粗利益は170億4,900万ユーロ（前年同期比で安定*）、グループ当期純利益は18億5,300万ユーロ（前年同期：12億6,100万ユーロ）だった。経済活動と関係ない項目、経常外項目およびレガシー資産⁽¹⁾の修正再表示後では、1～9月期の業務粗利益は182億7,400万ユーロ、グループ当期純利益は29億3,400万ユーロだった。

当グループは変革を継続して行い、卓越した強味を持つ3つの中核事業を中心とした、新たな組織構造を展開している：フランス国内ネットワーク部門（体制は維持）；国際バンキング＆金融サービス部門（IBFS：国際リテールバンキング部門および専門金融サービス＆保険部門の事業活動を網羅）；グローバルバンキング＆インベスターソリューションズ部門（GBIS：コーポレート＆インベストメントバンキング部門およびプライベートバンキング、グローバルインベストメントマネジメント＆サービス部門の事業活動を継承）。これらの3事業部門には資本が均等に配賦されており、それは利益への寄与度に反映されている。この新たな組織体制により、事業部門間の収入および経費のシナジー効果は強化され、より効率的な顧客サービスの統合および社内経営手法の簡素化が実現される。

それと同時に、ソシエテ ジェネラルはビジネスモデルを改良することにより、事業ポートフォリオの見直しおよび配賦された資本の最適化に積極的に取り組んだ。その結果、VTBが保有するロスバンク株の計画的な購入を通して、当グループはロシアにおける地位を強化した。日本におけるプライベートバンキング業務は売却された。最後に、ソシエテ ジェネラルはニューエッジを完全に関取するための独占交渉を開始した。その結果、当グループは取引執行から取引後（決済および関連サービス）までを含む、幅広いサービスを提供することに加えて、アメリカ大陸やアジア地域におけるプレゼンスを強化することが可能となる。

各事業部門は適応力を実証し、収益は前年同期比3.8%増*となった。厳しい環境を考慮すると、これは良好な実績である。**フランス国内ネットワーク部門**は、借入需要の低迷を背景とする、好調な預金残高の伸びに支えられ、堅固な収益となった（前年同期比2.0%増、PEL/CEL口座に係る引当金変動の影響の控除後）。**IBFS部門**全体の業務粗利益は前年同期比2.7%増*となり、専門金融サービス＆保険業務は記録的な収益を上げた。**GBIS部門**では、業務粗利益は前年同期比7.2%増*となり、**コーポレート＆インベストメントバンキング部門**および**プライベートバンキング、グローバルインベストメントマネジメント＆サービス部門**は同等の増益*となった。

営業費用は前年同期比0.9%減だった。全体では、2013年第3四半期の営業総利益は前年同期比0.6%増*となった。同時に、年初に発表された経費削減策により、2015年までに実現させる経常的な経費削減額のうち、2013年9月末時点で合計2億6,000万ユーロの経費削減が実現された。これに対して、2013年9月末時点で合計1億7,000万ユーロの一度限りの変革費用が計上された。

ベースポイント⁽²⁾で計測される**事業リスク引当比率**は2013年第3四半期には69bpと、2013年第2四半期の67bpから安定して推移しており、また、不良債権引当率は79%と1ポイント上昇した。

⁽¹⁾ 経済活動と関係ない項目、経常外項目およびレガシー資産：2013年第3四半期の業務粗利益への影響：1億7,000万ユーロの損失（金融債務の再評価：2億2,300万ユーロの損失、レガシー資産：6,100万ユーロの利益を含む）；2013年第3四半期の営業費用への影響：2,200万ユーロの削減（レガシー資産）；2013年第3四半期の引当金純繰入額：3億5,400万ユーロ（訴訟問題に対する引当金：2億ユーロおよびレガシー資産：1億5,400万ユーロを含む）。2013年1～9月期の業務粗利益への影響：12億2,500万ユーロの損失（金融債務の再評価：12億1,500万ユーロの損失を含む）；営業費用への影響：5,200万ユーロの削減（レガシー資産）；子会社または持ち株に係る売却または評価損の計上：4億3,300万ユーロの増加（NSGBに係る4億1,700万ユーロの増加およびTCWに係る2,400万ユーロの増加を含む）；引当金純繰入額：7億2,000万ユーロ（訴訟問題に対する引当金：4億ユーロおよびレガシー資産：3億2,000万ユーロを含む）。詳細および2012年度の数値に関しては、財務情報の基準となる事項の第8項を参照。

⁽²⁾ 年率ベース、訴訟問題および期初時点のレガシー資産の控除後。

2013年第3四半期末時点で当グループに適用された完全な「バーゼルIII」基準に基づくコアTier 1比率は9.9%⁽¹⁾と、51bpの大幅上昇となった。利益寄与およびレガシー資産ポートフォリオの継続的な削減がその要因として挙げられる。「バーゼル2.5」基準に基づくコアTier 1比率は11.6%⁽²⁾だった。

当グループの2013年第3四半期決算に関して、会長兼CEOであるフレデリック・ウデアは次のように述べている。

「基礎となるグループ当期純利益は、2013年第3四半期は9億7,600万ユーロ、2013年1～9月期は約30億ユーロとなり、ROEは8.6%と、ソシエテ・ジェネラルの事業部門は再度、急速に変化する環境への適応力を実証しました。当グループは、バーゼルIII基準の要件全てを満たす堅固な財務構造にも支えられています。また、変革計画の第2ステージも進展しています。その結果、中期的な成長および収益性の改善を実現することが可能となる見通しであり、2015年末までにROEを10%にすることを目標としています。当グループは引き続き、お客さまを中心に考えたユニバーサル・バンキングモデルの強化および最適化を行ってまいります。新たな、見直しおよび簡素化された組織構造を導入することにより、事業部門間のシナジー効果が強力に発揮され、当グループの効率化は改善される見通しです。」

⁽¹⁾ 2013年6月26日に発表された、デンマーク妥協案を含む、自己資本規制/自己資本指令（CRR/CRD）4の理解に基づいた、完全なバーゼルIII基準のコアTier 1比率による試算ベース。バーゼル2.5基準のコアTier 1比率は、欧州銀行監督機構（EBA）のバーゼル2.5基準（自己資本指令（CRD）3を取り入れたバーゼルII基準）に従い算出。

⁽²⁾ 前年同期：10.3%

1 - グループ連結決算

連結損益計算書 (単位：百万ユーロ)	フランス 国内 ネットワーク		国際バンキング & 金融サービス		グローバル バンキング & インベスター ソリューションズ		コーポレート センター		グループ	
	2013年 第3四半期	前年 同期比	2013年 第3四半期	前年 同期比	2013年 第3四半期	前年 同期比	2013年 第3四半期	前年 同期比	2013年 第3四半期	前年 同期比
業務粗利益	2,036	+2.0%(1)	1,972	+2.7%*	2,155	+7.2%*	(435)	+53.0%*	5,728	+14.3%*
営業費用	(1,293)		(1,096)	+3.6%*	(1,502)	+9.9%*	(48)	-28.4%*	(3,939)	+5.1%*
営業総利益	743	+0.8%(1)	876	+1.6%*	653	+1.5%*	(483)	+51.3%*	1,789	+41.6%*
引当金繰入額	(263)		(412)	-1.5%*	(231)	+19.1%*	(188)	x 94,0*	(1,094)	+31.9%*
営業利益	480	-7.6%(1)	464	+4.5%*	422	-6.1%*	(671)	+32.5%*	695	+60.2%*
グループ当期純利益	308		289	-0.1%*	366	+2.6%*	(429)	+5.5%*	534	-1.5%*

* グループ編成変更および為替相場の変動による影響を除いたベース

(1) PEL/CEL口座に係る引当金変動の控除後

連結損益計算書 (単位：百万ユーロ)	フランス 国内 ネットワーク		国際バンキング & 金融サービス		グローバル バンキング & インベスター ソリューションズ		コーポレート センター		グループ	
	2013年 1-9月期	前年 同期比	2013年 1-9月期	前年 同期比	2013年 1-9月期	前年 同期比	2013年 1-9月期	前年 同期比	2013年 1-9月期	前年 同期比
業務粗利益	6,120	+1.2%(1)	5,962	+1.7%*	6,705	+12.5%*	(1,738)	NM*	17,049	-0.3%*
営業費用	(3,901)		(3,357)	+1.4%*	(4,506)	+3.0%*	(150)	+0.7%*	(11,914)	+1.7%*
営業総利益	2,219	+2.5%(1)	2,605	+2.0%*	2,199	+38.4%*	(1,888)	-95.0%*	5,135	-4.7%*
引当金繰入額	(838)		(1,272)	-1.5%*	(487)	+10.9%*	(410)	x 51,2*	(3,007)	+27.0%*
営業利益	1,381	-9.8%(1)	1,333	+5.8%*	1,712	+48.9%*	(2,298)	NM*	2,128	-29.8%*
グループ当期純利益	883		816	+63.0%*	1,391	+44.8%*	(1,237)	NM*	1,853	-8.4%*
グループ税引後ROTE									6.1%	
期末時点のTier 1比率									13.5%	

* グループ編成変更および為替相場の変動による影響を除いたベース

(1) PEL/CEL口座に係る引当金変動の控除後

2012 年度の数値に関しては各事業部門のセクションおよび付属書類1（グループの主要指標）を参照

業務粗利益

当グループの業務粗利益は、2013 年第 3 四半期は 57 億 2,800 万ユーロとなり、2013 年 1～9 月期は 170 億 4,900 万ユーロとなった。

経済活動と関係ない項目、経常外項目およびレガシー資産の控除後では、収益は 2013 年第 3 四半期で 58 億 9,800 万ユーロ**、2013 年 1～9 月期で 182 億 7,400 万ユーロ**だった。

2013 年第 3 四半期の各事業部門の収益への寄与は全ての事業活動において前年同期の水準を上回り（3.8%増*）、3 つの中核事業の寄与度はそれぞれ全体の三分の一程度を占めた。

- フランス国内ネットワーク部門は成長を続け、借入需要の低迷を特徴とする背景において、力強い預金の伸びに支えられ、2013年第3四半期の収益は前年同期比1.3%増*、PEL/CEL口座に係る変動金の影響の控除後では同2.0%増となった。

- **国際バンキング&金融サービス部門（IBFS）**では、2013年第3四半期の収益は前年同期比2.7%増*となった。**国際リテール バンキング部門**の業務粗利益は全体で前年同期比1.4%増*と事業モデルの堅固性を改めて実証する形となった一方で、東欧の環境は引き続き厳しいものとなった。同時に、**専門金融サービス&保険部門**の収益は、好調な保険事業に牽引され（同12.0%増*）記録的な水準となった（同4.4%増*）。
- **コーポレート&インベストメント バンキング部門**および**プライベート バンキング、グローバル インベストメント マネジメント&サービス部門**の事業活動を網羅する**グローバル バンキング&インベスター ソリューションズ部門（GBIS）**の2013年第3四半期の収益は前年同期比7.2%増*となった。両部門とも同程度*の増益で、**プライベート バンキング、グローバル インベストメント マネジメント&サービス部門**の2013年第3四半期の収益は前年同期比7.4%増*（特にプライベート バンキングが大幅な増益となった）となり、また、低金利の継続、エマージング市場での危機および夏期における取引量の低迷にも関わらず、**コーポレート&インベストメント バンキング部門**の収益は同7.1%増*となった。

2013年1～9月期の事業部門の収益は前年同期比4.8%増*となった。

当グループの金融債務の再評価による業務粗利益への会計上の影響は、2013年第3四半期は2億2,300万ユーロのマイナスとなり、2013年1～9月期の影響は合計で12億1,500万ユーロのマイナスとなった。これはコーポレート センターの業務粗利益とほぼ同程度の水準である。2012年度には、第3四半期は5億9,400万ユーロのマイナス、1～9月期には5億6,900万ユーロのマイナスであった。

営業費用

当グループは営業費用の削減努力を継続的に行った。年初に発表した経費削減策により、2013年9月末時点で、一度限りの変革費用1億7,000万ユーロに対して、2015年までに経常的に削減する総額のうち、2億6,000万ユーロの削減が確保された。

2013年第3四半期の営業費用は39億3,900万ユーロ（前年同期：39億7,600万ユーロ）となった。2013年9月末時点の累積営業費用は前年同期の水準を僅かに上回った（1.7%増*）。経費削減計画の影響の控除後では、2013年1～9月期の営業費用は前年同期比⁽¹⁾で安定*しており、絶対ベースでは同4.4%減となった。

経済活動と関係ない項目、経常外項目および金融債務の再評価の影響の修正再表示後では、当グループの2013年1～9月期の経費率は64.9%**（前年同期：64.5%**）と全般的に安定している。

営業利益

当グループの2013年第3四半期の営業総利益は前年同期比41.6%増*の17億8,900万ユーロ（前年同期：14億2,100万ユーロ）となった。2013年1～9月期の営業総利益は前年同期比4.7%減*の51億3,500万ユーロ（前年同期：56億9,300万ユーロ）となった。各事業部門の収益の伸びおよび前述の営業費用削減努力に伴い、2013年1～9月期の当グループの事業部門の営業総利益は70億2,300万ユーロと、前年同期の水準を10.5%*上回った。

訴訟問題に対する引当金およびレガシー資産の控除後では、当グループの2013年第3四半期の引当金純繰入額は7億4,000万ユーロだった（前年同期：8億8,300万ユーロ）。合計では、2013年第3四半期の当グループの引当金純繰入額は10億9,400万ユーロ（前年同期：8億9,700万ユーロ）だった。

2013年第3四半期に、当グループは訴訟問題に対して2億ユーロの引当金の積み増しを行った結果、1～9月期の訴訟問題に対する引当金の積み増し額は合計で4億ユーロとなった。2013年9月末時点の訴訟問題に対する引当金は7億ユーロだった。

依然として厳しい経済環境の中、2013年第3四半期の**事業リスク引当比率**（ローン残高に占める割合で表示）は69bp⁽²⁾（前年同期：67bp⁽²⁾）と安定していた。

⁽¹⁾ 経費削減計画の為替相場の変動による影響を考慮せずに算出したベース

⁽²⁾ 年率ベース、訴訟問題および期初時点のレガシー資産の控除後

- **フランス国内ネットワーク部門**のリスク引当比率は 57bp（前期：58bp）と引き続き安定していた。当グループは法人顧客に対して引当金の積み増しを行った。
- **国際リテール バンキング部門**のリスク引当比率も 151bp（前期：150bp）と安定していたが、地域によりトレンドはまちまちであった。チェコ共和国は正常化し、ロシアおよびルーマニアは上昇した。地中海沿岸地域は低下した。
- 厳しい経済環境にも関わらず、**専門金融サービス部門**のリスク引当比率は 119bp（前期：115bp）と低水準を維持した。
- **コーポレート&インベストメント バンキング部門**の主力事業部門のリスク引当比率は 19bp（前期：22bp）と依然として低水準にあり、ローンポートフォリオの質の高さを実証するものであった。2013 年第 3 四半期のレガシー資産の引当金純繰入額は 1 億 5,400 万ユーロだった。

2013 年 9 月末時点の当グループの不良債権引当比率は 79%と、2013 年 6 月末および 2012 年 9 月末から 1 ポイント上昇した。

2013 年第 3 四半期の当グループの**営業利益**は 6 億 9,500 万ユーロだった（前年同期：5 億 2,400 万ユーロ）。2013 年 1～9 月の営業利益は 21 億 2,800 万ユーロ（前年同期：30 億 7,200 万ユーロ）だった。トレンドの違いは、主に金融債務の再評価による影響に起因するもので、2013 年第 3 四半期は前年同期よりプラスの効果をもたらしたが、2013 年 1～9 月期は前年同期よりマイナスの影響をもたらすこととなった。

当期純利益

所得税（当グループの 2013 年第 3 四半期の実効税率：13.2%、前年同期：ごく僅か）および少数株主持分の控除後では 2013 年第 3 四半期の当期純利益は 5 億 3,400 万ユーロ（前年同期：9,000 万ユーロ）だった。

経済活動と関係ない項目、経常外項目およびレガシー資産⁽¹⁾の影響の修正再表示後では、2013年第3四半期のグループ当期純利益は9億7,600万ユーロと、前年同期（8億5,400万ユーロ）の水準を14.3%上回った。

2013年 1～9月期のグループ当期純利益は18億5,300万ユーロ（前年同期：12億6,100万ユーロ）だった（2013年9月末時点の実効税率：20.1%、2012年：24.1%）。経済活動と関係ない項目、経常外項目およびレガシー資産の影響の修正再表示後では、2013年第1～9月期のグループ当期純利益は前年同期比4.3%増の29億3,400万ユーロだった。

経済活動と関係ない項目、経常外項目およびレガシー資産の影響の控除後では、2013 年第 3 四半期の当グループの ROE は 8.5%（絶対ベース：4.3%）だった。同様の基準で算出された当グループの ROTE は 9.9%（絶対ベース：5.0%）だった。経済活動と関係ない項目、経常外項目およびレガシー資産の影響の控除後の 2013 年 1～9 月期の ROE は 8.6%（絶対ベース：5.2%）、そして ROTE は 10.1%（絶対ベース：6.1%）だった。

超劣後債および永久劣後債に係る支払利息⁽²⁾の控除後では、2013 年 1～9 月期の一株当たり利益は 2.12 ユーロとなった。

当グループの自己資本比率が大幅に強化されたことを考慮して、当グループは、株式支払配当オプションを付与することなく、25%の配当性向を基準とした現金配当を行う予定であることを確認した。

⁽¹⁾ 財務情報の基準となる事項の第 8 項を参照。

⁽²⁾ 超劣後債および永久劣後債に係る税引後支払利息は、2013 年第 3 四半期に関してはそれぞれ 6,500 万ユーロおよび 1,400 万ユーロ、2013 年 1～9 月期に関してはそれぞれ 1 億 9,000 万ユーロおよび 4,300 万ユーロだった。

2 - グループの財務構造

2013 年 9 月 30 日時点の当グループの株主資本は総額 509 億ユーロ⁽¹⁾、一株当たり有形純資産価値は 48.83 ユーロ（未実現キャピタルゲインの 1.04 ユーロを含む一株上がり純資産価値：56.73 ユーロに相当）だった。

2013 年 9 月 30 日時点の連結バランスシートは総額 1 兆 2,540 億ユーロ（2012 年 9 月末：1 兆 2,820 億ユーロ、2012 年 12 月末：1 兆 2,500 億ユーロ）だった。借入需要の低迷を反映し、顧客貸出残高は 3,380 億ユーロと、2012 年 12 月 31 日の水準から 120 億ユーロ減少した（前年同期：220 億ユーロの減少）。同時に、顧客預金残高は 3,500 億ユーロと、2012 年 12 月 31 日の水準から 130 億ユーロ増加した（前年同期：40 億ユーロの増加）。

2013 年 9 月 30 日時点の、当グループの資金調達済バランスシート（財務情報の基準となる事項の第 7 項を参照）は総額 6,290 億ユーロと 2012 年 12 月 31 日の水準から 230 億ユーロ減少し、預貸率は 110%（2012 年 12 月 31 日：118%）となった。年初来⁽²⁾で、当グループは平均満期期間 5.8 年の中長期債の発行を通して、2013 年の資金調達ニーズを上回る、総額 234 億ユーロを調達した。9 月 30 日時点の当グループの流動資産のバッファー（中央銀行への預金正味額および中央銀行での利用可能な資産）は合計で 1,370 億ユーロ（2012 年 12 月 31 日：1,330 億ユーロ）と、短期資金調達ニーズを 129%カバーしている。

当グループのリスク調整後資産（バーゼル 2.5 基準を基に算出）は 2013 年 9 月末時点で 3,104 億ユーロだった（2012 年 9 月末：3,371 億ユーロ、2012 年 12 月末：3,241 億ユーロ）。リスク調整後資産の削減は継続して行われ、特に市場リスクは大幅に削減された（1 年間で 9.0%減）。当グループの 3 つの中核事業はそれぞれ、当グループの慎重なコミットメントの三分の一相当を構成しており、主にリテール バンキング業務がその大半を占めている：フランス国内ネットワーク部門は 914 億ユーロ、国際バンキング&金融サービス部門は 1,064 億ユーロ、グローバル バンキング&インベスター ソリューションズは 1,062 億ユーロ。レガシー資産ポートフォリオを削減するための持続的な努力により、2013 年第 3 四半期にレガシー資産ポートフォリオのリスク調整後資産は 24.4%削減された（1 年間ではほぼ三分の二を削減）。レガシー資産ポートフォリオのリスク調整後資産が当グループのリスク調整後資産に占める割合は 1.8%となった。

2013 年 9 月 30 日時点の、バーゼル 2.5 基準に基づき算出された当グループのコア Tier 1 比率は 11.6%⁽³⁾となった。2013 年 9 月 30 日時点の、バーゼル III 基準⁽⁴⁾に基づき算出したコア Tier 1 比率は 9.9%と、第 3 四半期に 51bp 上昇した。上昇の大半は、資本形成（第 3 四半期の配当金控除後の利益および従業員割当増資：+22bp）およびレガシー資産ポートフォリオの削減策（+21bp）を要因としている。2013 年 9 月 30 日時点の、バーゼル 2.5 基準を基にした Tier 1 比率は 13.5%（2012 年 9 月 30 日：12.0%）だった。

バーゼル III 基準⁽⁴⁾に基づくレバレッジ比率は 3.3%だった。

当グループは格付け機関の DBRS（AA – low）、フィッチ（A、2013 年 7 月 17 日に付与）、ムーディーズ（A2）および S&P（A）より格付けを付与されている。

⁽¹⁾ この数値には主に(i) 53 億ユーロの超劣後債および(ii)15 億ユーロの永久劣後債が含まれる。

⁽²⁾ 2013 年 10 月 28 日時点。

⁽³⁾ 2012 年 9 月 30 日時点：10.3%

⁽⁴⁾ バーゼル III 基準を基にしたコア Tier 1 比率およびレバレッジ比率は、2013 年 6 月 26 日に発表された、デンマーク妥協案を含む、自己資本規制/自己資本指令（CRR/CRD）4 の理解に基づき算出。完全なコア Tier 1 比率。

3 - フランス国内ネットワーク部門

(単位：百万ユーロ)	2012年 第3四半期	2013年 第3四半期	増減 (%)	2012年 1-9月期	2013年 1-9月期	増減 (%)
業務粗利益	2,010	2,036	+1.3% +2.0%(1)	6,093	6,120	+0.4% +1.2%(1)
営業費用	(1,258)	(1,293)	+2.8%	(3,882)	(3,901)	+0.5%
営業総利益	752	743	-1.2% +0.8%(1)	2,211	2,219	+0.4% +2.5%(1)
引当金純繰入額	(216)	(263)	+21.8%	(631)	(838)	+32.8%
営業利益	536	480	-10.4%	1,580	1,381	-12.6%
グループ当期純利益	351	308	-12.3%	1,037	883	-14.9%

(1) PEL/CEL関連控除後

2013年第3四半期のフランス国内ネットワーク部門は、依然厳しい国内のマクロ経済環境にもかかわらず堅調に推移し、増収を記録した。

預金獲得競争がなお熾烈な中で、預金残高は前年同期比9.6%増の1,569億ユーロとなった。この業績をけん引したのは、前年同期比24.6%の増加を記録した定期預金と譲渡性預金の新規受入高だった。規制貯蓄（PEL貯蓄口座を除く）は8.4%増加した。Livret A（通帳預金口座）と持続可能開発貯蓄口座は、引き続き限度枠の引き上げが追い風となった。フランス国内ネットワーク部門は法人、個人顧客双方のプロジェクトを資金面で支え、引き続き顧客に資する強い姿勢を示したほか、経済全般に寄与した。法人向けの貸出残高は777億ユーロ（前年同期は799億ユーロ）、個人向けの貸出残高は952億ユーロ（同横ばい）だった。2013年第3四半期の預貸率は111%で、前期の114%、前年同期の123%から改善した。

ソシエテ ジェネラルは2013年10月、ピセオ・コンセイユ・アワード銀行部門の「カスタマーサービス・オブ・ザ・イヤー2014」を受賞した。顧客満足に対する当行チームの取り組みが評価された。2013年9月、ブルソラマは雑誌ル・レヴェニュー（専門性の高い顧客向け）から「ベスト・オンラインバンク」に選ばれた。

当部門の収益は前年同期比1.3%増加し、20億3,600万ユーロの業務粗利益となった。PEL/CEL関連の影響を除いた業務粗利益は、同2.0%増加した。PEL/CEL関連控除後の利ざや拡大（前年同期比2.9%拡大）は、預金のプラスの数量効果に加え、Livret Aの利率低下と貸出利ざやの回復傾向が寄与したためと考えられる。手数料は前年同期比1.0%増加した。フランス国内ネットワーク部門の年初来9カ月間の業務粗利益は61億2,000万ユーロで、前年同期比1.2%増加した（PEL/CEL関連控除後）。

2013年第3四半期の営業費用は、主に一時的な影響⁽¹⁾により前年同期比2.8%増加した。当部門の営業総利益は、前年同期比0.8%増の7億4,300万ユーロだった（PEL/CEL関連控除後）。年初来9カ月間の当部門の営業総利益は、営業費用の増加が0.5%と小幅⁽¹⁾だったため、前年同期比2.5%増の22億1,900万ユーロとなった（PEL/CEL関連控除後）。

2013年第3四半期の引当金純繰入額は、前年同期の2億1,600万ユーロに対して2億6,300万ユーロだった。2013年第3四半期のリスク引当比率（対貸出残高の比率）は前期から1bp低下の57bpだった。

2013年第3四半期のフランス国内ネットワーク部門のグループ当期純利益への寄与は、フランス経済の不振を反映して3億800万ユーロにとどまった（前年同期比12.3%減）。年初来9カ月間のグループ当期純利益への寄与は、8億8,300万ユーロだった（2012年年初来9カ月間は10億3,700万ユーロ）。

⁽¹⁾ 特に2013年初めからの各事業へのシステミック・リスク税の配分。昨年は2012年第4四半期に配分されたのみ。年末時点で配分された当該税の75%が2012年年初来9カ月間の費用に含まれるとした場合（3,550万ユーロ）、当部門の年初来9カ月間の営業費用は合計で0.2%減少する。

4 - 国際バンキング&金融サービス部門

新しい国際バンキング&金融サービス部門には、国際リテールバンキング部門と専門金融サービス&保険部門が含まれる。

	国際バンキング&金融サービス				国際リテールバンキング				専門金融サービス&保険			
	2012年	2013年	増減		2012年	2013年	増減		2012年	2013年	増減	
	第3四半期	第3四半期	(%)		第3四半期	第3四半期	(%)		第3四半期	第3四半期	(%)	
業務粗利益	2,119	1,972	-6.9%	+2.7%*	1,250	1,084	-13.3%	+1.4%*	869	888	+2.2%	+4.4%*
営業費用	(1,180)	(1,096)	-7.1%	+3.6%*	(732)	(655)	-10.5%	+4.7%*	(448)	(441)	-1.6%	+2.1%*
営業総利益	939	876	-6.7%	+1.6%*	518	429	-17.2%	-3.3%*	421	447	+6.2%	+6.8%*
引当金繰入額	(480)	(412)	-14.2%	-1.5%*	(302)	(256)	-15.2%	+4.0%*	(178)	(156)	-12.4%	-9.3%*
営業利益	459	464	+1.1%	+4.5%*	216	173	-19.9%	-12.2%*	243	291	+19.8%	+18.3%*
グループ当期純利益	291	289	-0.7%	-0.1%*	112	84	-25.0%	-23.5%*	179	205	+14.5%	+14.9%*

* グループ組織変更による影響の控除後、および恒常為替レートに基づく

	国際バンキング&金融サービス				国際リテールバンキング				専門金融サービス&保険			
	2012年	2013年	増減		2012年	2013年	増減		2012年	2013年	増減	
	1-9月期	1-9月期	(%)		1-9月期	1-9月期	(%)		1-9月期	1-9月期	(%)	
業務粗利益	6,310	5,962	-5.5%	+1.7%*	3,715	3,315	-10.8%	+0.5%*	2,595	2,647	+2.0%	+3.1%*
営業費用	(3,604)	(3,357)	-6.9%	+1.4%*	(2,248)	(2,015)	-10.4%	+1.6%*	(1,356)	(1,342)	-1.0%	+1.1%*
営業総利益	2,706	2,605	-3.7%	+2.0%*	1,467	1,300	-11.4%	-1.0%*	1,239	1,305	+5.3%	+5.2%*
引当金繰入額	(1,524)	(1,272)	-16.5%	-1.5%*	(1,012)	(808)	-20.2%	+2.0%*	(512)	(464)	-9.4%	-7.0%*
営業利益	1,182	1,333	+12.8%	+5.8%*	455	492	+8.1%	-5.7%*	727	841	+15.7%	+13.7%*
グループ当期純利益	435	816	+87.6%	+63.0%*	(74)	222	NM	NM*	509	594	+16.7%	+16.8%*

* グループ組織変更による影響の控除後、および恒常為替レートに基づく

4.1 国際リテールバンキング部門

(単位：百万ユーロ)	2012年 第3四半期	2013年 第3四半期	増減 (%)	2012年 1-9月期	2013年 1-9月期	増減 (%)
業務粗利益	1,250	1,084	-13.3%	3,715	3,315	-10.8%
比較可能ベース*			+1.4%			+0.5%
営業費用	(732)	(655)	-10.5%	(2,248)	(2,015)	-10.4%
比較可能ベース*			+4.7%			+1.6%
営業総利益	518	429	-17.2%	1,467	1,300	-11.4%
比較可能ベース*			-3.3%			-1.0%
引当金純繰入額	(302)	(256)	-15.2%	(1,012)	(808)	-20.2%
営業利益	216	173	-19.9%	455	492	+8.1%
比較可能ベース*			-12.2%			-5.7%
グループ当期純利益	112	84	-25.0%	(74)	222	NM

国際リテールバンキング部門の2013年第3四半期の事業活動は、同上半期の流れを踏襲するものとなった。

当部門の貸出残高は、欧州の経済成長が減速するなか、616億ユーロとやや増加した（前年同期比0.8%増）。法人顧客（4.5%減）と個人顧客（7.9%増）の貸出残高は対照的な結果となった。こうしたなかでロシアとチェコ共和国は、貸出残高の大幅な伸びにより存在感を示した。

同時に、2013年第3四半期の預金残高の伸びが2012年9月末から加速し（9.2%増）、644億ユーロとなった。特に法人顧客の新規受入高が好調だったほか、ロシア（20%増）、中・東欧諸国（14.7%増）も依然高い伸びを示した。

当部門の収益は、小幅増加（前年同期比1.4%増）の10億8,400万ユーロだった。収益はロシアとサハラ以南のアフリカで増加した一方、欧州の低金利環境の持続を受けてチェコ共和国では横ばい、ルーマニアでは減少し、地中海沿岸地域でも減少した。

2013年第3四半期のコストは前年同期比4.7%増加した。主にサハラ以南のアフリカ、地中海沿岸地域での賃金上昇と、これらの地域での支店網拡大が影響した。

2013年第3四半期の営業総利益は4億2,900万ユーロで、前年同期比3.3%減少した。

国際リテールバンキング部門の2013年第3四半期のグループ当期純利益への寄与は、8,400万ユーロだった。これは前年同期比25.0%の減少だが、前期（5,900万ユーロ）を上回った。

2013年の年初来9カ月間では、当部門の収益は33億1,500万ユーロ、営業総利益は13億ユーロ、グループ当期純利益への寄与は2億2,200万ユーロだった。

ロシア（ロスバンク、デルタクレジットおよびラスファイナンスの25%持分を含む）では、2013年第3四半期の決算は、同上半期の改善の流れをさらに裏付けるものとなった。事業活動の伸びは引き続き堅調に推移している。2013年第3四半期の貸出残高は、個人顧客向けの大幅な伸び（18.8%増）を受けて前年同期比10.2%増の123億ユーロとなった。法人顧客向け貸出残高は、ローン組成が健全な水準だったものの、ローンの返済が高水準で推移したため、やや減少した。一方、預金残高は、グループが導入した預金獲得戦略が成果を上げ、法人、個人とも高い伸びを記録した（全体で20%増の87億ユーロ）。この結果、預貸率は引き続き急速に改善した。

これらの好調な実績は、業務粗利益の前年同期比増加となって現れた（16.8%*増）⁽¹⁾。2013 年第 3 四半期のコストは、2013 年の 6.5%近いインフレ率のなかで引き続き抑制された（4.8%*増）。2013 年第 3 四半期のグループ当期純利益への寄与は、前年同期比 44%*増の 1,300 万ユーロだった。

全体として SG ロシア⁽²⁾の事業は、2013 年第 3 四半期のグループ当期純利益に対して 3,200 万ユーロのプラス寄与となった。SG ロシア事業の 2013 年第 3 四半期の ROE（自己資本利益率）は、グループ配分による標準的資本ベースで 10.3%だった。

チェコ共和国では、経済環境の低迷と競争激化にもかかわらず、コメルチニ バンカ（KB）の事業活動は引き続き好調だった。貸出残高は 2012 年 9 月末比で 3.2%*（179 億ユーロに）、預金残高は同 7.8%*（238 億ユーロに）それぞれ増加した。しかし、このプラスの数量効果も、低金利により 2013 年に預金利ざやの低下が続いたことで相殺された。この結果、2013 年第 3 四半期の収益は前年同期比微減（0.7%*減）の 2 億 6,900 万ユーロとなった。また、営業費用は微増（0.8%*増）の 1 億 3,000 万ユーロだった。2013 年第 3 四半期のグループ当期純利益への寄与は 6,000 万ユーロだった（前年同期は 6,300 万ユーロ）。

ルーマニアでは、いまだ不安定な経済環境の中で、BRD の 2013 年第 3 四半期の貸出残高は 2012 年 9 月末から 10.1%*減少した（67 億ユーロに）。個人顧客向けの貸出残高は横ばいだったが、法人向けの大幅な落ち込みが響いた。預金残高は、法人セグメントを中心に、企業の模様眺めの姿勢を反映して大幅に増加した（6.7%*増の 76 億ユーロ）。こうしたことから、ルーマニアの 2013 年第 3 四半期の収益は 1 億 4,500 万ユーロ（前年同期比 2.0%*減）だった一方、営業費用は 8,200 万ユーロとなった。当期純利益はほぼ損益分岐水準だった（前年同期の 1,500 万ユーロの損失に対して、2013 年第 3 四半期は 700 万ユーロの損失）。

その他の中・東欧諸国では新規顧客の獲得が進み（顧客数は前年同期比 6.1%増）、法人顧客を中心に預金残高は 14.7%*増と大幅に増加した（75 億ユーロに）。こうした預金面での勢いとは対照的に、2013 年第 3 四半期の貸出業務は低調な伸びとなった（0.7%*増の 84 億ユーロ）。預金のプラスの数量効果にもかかわらず、クロアチアでの事業不振により、収益は前年同期比横ばいの 1 億 2,600 万ユーロ（0.3%*増）にとどまった。コストは、人件費の増加により前年同期比で 6.4%*増加した。この地域の当期純利益は 400 万ユーロだった。

地中海沿岸地域では、預金残高が 2012 年 9 月末比で 3.0%*増加して 78 億ユーロとなった。アルジェリアの増加が目立った。2013 年第 3 四半期の貸出残高は、モロッコでの減少が響いて引き続き低調だった（前年同期比 3.7%*減の 79 億ユーロ）。業務粗利益は、主にアルジェリアでの手数料と外国為替規制の変更により前年同期比で 3.4%*減少した。営業費用は、支店網の拡大（年間 16 支店の開設）と地元の高インフレの影響により、5.8%*増加した。

サハラ以南のアフリカでは、コートジボワールの落ち込みで好調な個人顧客セグメントの影が薄れたものの、貸出残高は前年同期比 2.3%*増の 30 億ユーロとなった。2013 年第 3 四半期の預金残高は 42 億ユーロとさらに大幅に伸び（6.3%*増）、結果的に収益は前年同期比 6.8%*増の 1 億 300 万ユーロとなった。グループは年間 14 支店を開設し、支店網を拡大した。このため、営業費用は前年同期比 17.2%*増加した。営業総利益は 3,700 万ユーロだった。

⁽¹⁾ 2012 年末現在、ベルロスバンク（ベラルーシ）およびロスバンクの債権回収子会社である AVD は、グループの事業見直しの一環として売却された。

⁽²⁾ SG ロシアの決算：ロスバンク、デルタクレジット・バンク、ラスファイナンス・バンク、ソシエテ ジェネラル インシュランス、ALD オートモーティブおよびこれらの連結子会社の事業決算への寄与。

4.2 専門金融サービス&保険部門

(単位：百万ユーロ)	2012 年 第 3 四半期	2013 年 第 3 四半期	増減 (%)	2012 年 1-9 月期	2013 年 1-9 月期	増減 (%)
業務粗利益	869	888	+2.2%	2,595	2,647	+2.0%
比較可能ベース*			+4.4%			+3.1%
営業費用	(448)	(441)	-1.6%	(1,356)	(1,342)	-1.0%
比較可能ベース*			+2.1%			+1.1%
営業総利益	421	447	+6.2%	1,239	1,305	+5.3%
比較可能ベース*			+6.8%			+5.2%
引当金繰入額	(178)	(156)	-12.4%	(512)	(464)	-9.4%
営業利益	243	291	+19.8%	727	841	+15.7%
比較可能ベース*			+18.3%			+13.7%
グループ当期純利益	179	205	+14.5%	509	594	+16.7%

専門金融サービス&保険部門は以下の事業により構成されている。

- (i) 専門金融サービス事業（車両オペレーショナルリース・車両管理、設備ファイナンス、消費者金融）
- (ii) 保険事業（生命保険、人的損害賠償保険、物的損害賠償保険）

2013 年第 3 四半期の専門金融サービス&保険部門は良好な業績を示し、グループ当期純利益への寄与は前年同期比 14.5%増の 2 億 500 万ユーロとなった。

車両オペレーショナルリース・車両管理事業は引き続き管理車両台数を伸長させ、2013 年 9 月末の管理車両台数は約 990,000 台に達し、2012 年 9 月末比 5.6%⁽¹⁾増の伸びとなった。自動車メーカーとの提携契約の順調な進展と銀行のネットワークの活用が車両台数の拡大を下支えした。

投資が減速する中で、設備ファイナンス事業はベンダー・プログラム事業を中心に築き上げた強固な地位を背景に、回復基調にあることが立証された。当事業の新規契約高（ファクタリングを除く）は 16 億ユーロと前年同期比の減少幅が限定的（2.6%*減）に留まったほか、スカンジナビアと英国の新規契約高が力強い伸び（それぞれ 7.2%*増と 20.3%*増）を示した。当事業における選別的なオリジネーション戦略が奏功し、利ざやは良く持ちこたえた。契約残高（ファクタリングを除く）は 2012 年 9 月末比 4.0%*減の 169 億ユーロとなった。

依然低迷する環境の中、2013 年第 3 四半期の消費者金融事業の新規貸出高は、ドイツにおける順調な提携契約を背景に、2012 年第 3 四半期を 3.7%*上回る 24 億ユーロに達した。消費者金融貸出残高は 2012 年 9 月末比 2.2%*減の 213 億ユーロであった。

専門金融サービス事業の業務粗利益は前年同期比 2.5%*増の 7 億 100 万ユーロとなった。営業費用(3 億 6,900 万ユーロ)が安定的に推移したことから、営業総利益は前年同期比 5.5%*増の 3 億 3,200 万ユーロに拡大した。

2013 年第 3 四半期の専門金融サービス事業の引当金繰入純額は、2012 年第 3 四半期の 1 億 7,800 万ユーロ（123bp）から 1 億 5,600 万ユーロ（119bp）に減少したが、2013 年第 2 四半期比では小幅増（300 万ユーロ増）となった。

2009 年以來の当事業に対する安定的な資本配分を背景に、2013年第3四半期の専門金融サービス事業のグループ当期純利益への寄与は1億2,400万ユーロ（前年同期比19.2%増）に上り、ROEは13.7%となった。

⁽¹⁾グループ編成変更の影響の控除後

2013年の年初来9カ月間のグループ当期純利益への寄与は3億5,200万ユーロ（前年同期比23.1%増）であった。

専門金融サービス事業は外部資金調達の取り組みを継続させ、2013年の外部資金調達は総額 31 億ユーロに上った。この中には主にドイツにおいて順調に実施された 2 回目の自動車売掛債権 9 億 1,500 万ユーロの証券化案件が含まれる。

2013 年第 3 四半期の**保険事業**は良好な業績を示し、業務粗利益は前年同期比 12.0%*増の 1 億 8,700 万ユーロに拡大した。

2013 年第 3 四半期の生命保険事業の契約残高は引き続き増加し、828 億ユーロ（2012 年 9 月末比 6.1%*増）に膨らみ、2013 年第 3 四半期の純資金流入は 1 億ユーロとなった。

人的損害賠償保険事業と物的損害賠償保険事業はポーランドとロシアを中心とする海外事業の拡大を追い風に引き続き力強い成長を示し、受取保険収入は前年同期比 20.0%*増となった。

保険事業のグループ当期純利益への寄与は、2013 年第 3 四半期が 8,100 万ユーロ、2013 年の年初来 9 カ月間が 2 億 4,200 万ユーロであった。

5 - グローバルバンキング&インベスターソリューションズ部門

新しいグローバルバンキング&インベスターソリューションズ部門には、コーポレート&インベストメントバンキング部門、およびプライベートバンキング、グローバルインベストメントマネジメント&サービスの事業が含まれる。

	グローバルバンキング& インベスターソリューションズ				コーポレート&インベストメント バンキング				プライベートバンキング、 グローバルインベストメント マネジメント&サービス			
	2012年	2013年	増減		2012年	2013年	増減		2012年	2013年	増減	
	第3四半期	第3四半期	(%)		第3四半期	第3四半期	(%)		第3四半期	第3四半期	(%)	
業務粗利益	2,160	2,155	-0.2%	+7.2%*	1,639	1,696	+3.5%	+7.1%*	521	459	-11.9%	+7.4%*
営業費用	(1,470)	(1,502)	+2.2%	+9.9%*	(1,007)	(1,111)	+10.3%	+14.3%*	(463)	(391)	-15.6%	-0.9%*
営業総利益	690	653	-5.4%	+1.5%*	632	585	-7.4%	-4.3%*	58	68	+17.2%	x 2,1*
引当金繰入額	(199)	(231)	+16.1%	+19.1%*	(197)	(212)	+7.6%	+10.4%*	(2)	(19)	x9.5	x 9,5*
営業利益	491	422	-14.1%	-6.1%*	435	373	-14.3%	-11.0%*	56	49	-12.5%	+59.5%*
グループ当期純利益	385	366	-4.9%	+2.6%*	322	305	-5.3%	-1.6%*	63	61	-3.2%	+30.5%*

* グループ組織変更による影響の控除後、および恒常為替レートに基づく

	グローバルバンキング& インベスターソリューションズ				コーポレート&インベストメント バンキング				プライベートバンキング、 グローバルインベストメント マネジメント&サービス			
	2012年	2013年	増減		2012年	2013年	増減		2012年	2013年	増減	
	1-9月期	1-9月期	(%)		1-9月期	1-9月期	(%)		1-9月期	1-9月期	(%)	
業務粗利益	6,336	6,705	+5.8%	+12.5%*	4,729	5,288	+11.8%	+14.7%*	1,607	1,417	-11.8%	+4.8%*
営業費用	(4,651)	(4,506)	-3.1%	+3.0%*	(3,232)	(3,297)	+2.0%	+4.1%*	(1,419)	(1,209)	-14.8%	+0.1%*
営業総利益	1,685	2,199	+30.5%	+38.4%*	1,497	1,991	+33.0%	+37.9%*	188	208	+10.6%	+43.8%*
引当金繰入額	(443)	(487)	+9.9%	+10.9%*	(434)	(466)	+7.4%	+8.4%*	(9)	(21)	x2.3	x 2,3
営業利益	1,242	1,712	+37.8%	+48.9%*	1,063	1,525	+43.5%	+50.4%*	179	187	+4.5%	+37.9%*
グループ当期純利益	819	1,391	+69.8%	+44.8%*	804	1,173	+45.9%	+51.9%*	15	218	x14.5	+15.5%*

* グループ組織変更による影響の控除後、および恒常為替レートに基づく

5.1 コーポレート&インベストメントバンキング部門

(単位：百万ユーロ)	2012年 第3四半期	2013年 第3四半期	増減 (%)	2012年 1-9月期	2013年 1-9月期	増減 (%)
業務粗利益	1,639	1,696	+3.5%	4,729	5,288	+11.8%
比較可能ベース*			+7.1%			+14.7%
ファイナンス&アドバイザー	481	442	-8.1%	1,146	1,319	+15.1%
比較可能ベース*			-7.5%			+16.8%
グローバル マーケッツ(1)	1,252	1,193	-4.7%	3,846	3,834	-0.3%
比較可能ベース*			-0.3%			+2.5%
レガシー資産	(94)	61	NM	(263)	135	NM
営業費用	(1,007)	(1,111)	+10.3%	(3,232)	(3,297)	+2.0%
比較可能ベース*			+14.3%			+4.1%
営業総利益	632	585	-7.4%	1,497	1,991	+33.0%
比較可能ベース*			-4.3%			+37.9%
引当金純繰入額	(197)	(212)	+7.6%	(434)	(466)	+7.4%
うちレガシー資産	(14)	(154)	x11.0	(167)	(320)	+91.6%
営業利益	435	373	-14.3%	1,063	1,525	+43.5%
比較可能ベース*			-11.0%			+50.4%
グループ当期純利益	322	305	-5.3%	804	1,173	+45.9%

(1) うち「エクイティ」は2013年第3四半期に6億7,500万ユーロ（前年同期：5億7,500万ユーロ）、「債券・為替・コモディティ」は同5億1,700万ユーロ（前年同期：6億7,800万ユーロ）

コーポレート&インベストメントバンキング部門の2013年第3四半期の収益は16億9,600万ユーロと、前年同期比7.1%*増加した。年初来9カ月間の収益は、前年同期の47億2,900万ユーロに対して14.7%*増の52億8,800万ユーロとなった。

コーポレート&インベストメントバンキング部門の主力事業の収益は、前年同期比2.3%*減の16億3,500万ユーロだった。これは、ECB（欧州中央銀行）による金融緩和策が追い風となった2012年第3四半期の反動によるものである。さまざまな経常外項目（2013年第3四半期：CVA/DVA関連⁽¹⁾で800万ユーロのマイナス、2012年第3四半期：貸出金売却に伴うネットディスカウント関連で8,400万ユーロのマイナス）の修正再表示後では、収益は前年同期比9.6%減となった。2013年年初来9カ月間の収益は、前年同期の49億9,200万ユーロに対して51億5,300万ユーロとなり、顧客主体業務に支えられたSG CIBの主力事業の収益の循環的性格とボラティリティの低さを実証した。

エクイティ業務は、6億7,500万ユーロと、ストラクチャード商品、フロー商品とも堅調な実績を上げた。この業務の収益は、3,800万ユーロのCVA/DVA関連のプラス寄与を除いても前年同期比11.0%増加した。リクソーの運用資産も、品ぞろえの拡大により第3四半期の新規受入高が大幅に増えたことから増加した。最後に、SG CIBのストラクチャード商品に関するマルチプロダクトの専門性が改めて評価され、ザ・バンカー誌から「ストラクチャード投資家商品における最も革新的な投資銀行」に選ばれた（2013年10月）。

債券・為替・コモディティ業務の収益は、厳しい市場環境にもかかわらず、好調を記録した前年同期と比べてよく健闘した。2013年第3四半期のCVA/DVA関連の2,100万ユーロのマイナス影響を修正再表示すると、収益は前年同期比20.7%減だった。債券・為替業務は、法人顧客を中心とする欧州の旺盛な需要を反映して高い業績を上げた。一例では、SG CIBは、SAREB⁽²⁾（スペインの銀行再建計画を担当する資産運

⁽¹⁾ 国際財務報告基準（IFRS）第13号の新規適用後の信用リスクに関わる公正価値調整

⁽²⁾ 2012年と2013年に、SAREBは総額500億ユーロの変動金利債を発行した。中・長期的な金利動向をめぐる不透明感を減らすため、また資金コストを圧縮するため、取締役会は金利スワップを通じて420億ユーロをヘッジすることを決めた。

用会社)のために大型の金利ヘッジ取引(額面金額 420 億ユーロ)にグローバル・コーディネーターとして参加した。

ファイナンス&アドバイザリー事業の収益は 4 億 4,300 万ユーロと、前年同期から減少した(2013 年第 3 四半期の CVA/DVA 関連の 2,500 万ユーロのマイナス影響、および 2012 年第 3 四半期に 8,400 万ユーロのマイナスを計上した、レバレッジ投資解消の一環である貸出金売却に伴うネットディスカウントの修正再表示後で 17.0%減)。ファイナンス業務の決算は明暗が混在した。実績は、特に好調だった前年同期に比べて減少したが、年初来 9 カ月間では増加した。SG CIB は資本市場での地位をさらに固めた。「すべての国際ユーロ建て債券」では第 5 位にランクされたほか⁽¹⁾、「すべてのユーロ社債」では第 3 位、「すべてのユーロ金融機関債」では第 6 位、「ECM および EQL のユーロ建て」では第 7 位となった。SG CIB は数件の取引で主導的な役割を務めた。特に、英国国債管理局(DMO)から、指標となる 30 年物インフレ連動国債の再開に関して主幹事に任命された。この発行は英国 DMO の 4 回目のシンジケート取引であり、その 2013/2014 年計画に関わるインデックス債では 2 回目となる。SG CIB はまた、アリババによるアジアでの総額 80 億米ドルのシンジケートローンの実施についてリードアレンジャーを務めた。

レガシー資産は、2013 年第 3 四半期の収益に 6,100 万ユーロのプラス寄与となった。第 3 四半期もグループは非投資適格資産ポートフォリオの圧縮という方針を堅持し、その結果、正味簿価は 18 億ユーロから 10 億ユーロに減少した。レガシー資産の収益は、2012 年年初来 9 カ月間の 2 億 6,300 万ユーロのマイナスから、2013 年年初来 9 カ月間は 1 億 3,500 万ユーロのプラスとなった。

当部門の 2013 年第 3 四半期の営業費用は 11 億 1,100 万ユーロと、前年同期比 14.3%*増加した。これは主に、2012 年第 4 四半期以降の各事業へのシステミック・リスク税の配分、「Contribution Sociale de Solidarité des Sociétés(社会的連帯拠出金)」の増加、その他の一時的要因によるものだった。年初来 9 カ月間の営業費用は限定的な増加に抑えられた(2012 年年初来 9 カ月間の 32 億 3,200 万ユーロに対して、2013 年年初来 9 カ月間は 4.1%*増の 32 億 9,700 万ユーロ)。

2013 年第 3 四半期の当部門の引当金純繰入額は 2 億 1,200 万ユーロと、前年同期比 10.4%*増加した。主力事業の**リスク引当比率**は依然低く、19bp だった。レガシー資産の引当金純繰入額は、主にこのポートフォリオの規模圧縮の取り組みが効いて 1 億 5,400 万ユーロだった。

2013 年年初来 9 カ月間の引当金純繰入額は、前年同期比 8.4%*増の 4 億 6,600 万ユーロだった(2012 年年初来 9 カ月間は 4 億 3,400 万ユーロ)。

コーポレート&インベストメント バンキング部門の 2013 年第 3 四半期のグループ当期純利益への寄与は、前年同期の 3 億 2,200 万ユーロに対して 3 億 500 万ユーロだった。2013 年年初来 9 カ月間のグループ当期純利益への寄与は、2012 年年初来 9 カ月間を大幅に上回る(45.9%増)11 億 7,300 万ユーロだった。年初来 9 カ月間の ROE は全体で 12%(バーゼルⅢは 10%)、主力事業では 17%だった。

⁽¹⁾ 2013 年 10 月 24 日現在

5.2 プライベートバンキング、グローバルインベストメント マネジメント&サービス部門

(単位：百万ユーロ)	2012 年 第 3 四半期	2013 年 第 3 四半期	増減 (%)	2012 年 1-9 月期	2013 年 1-9 月期	増減 (%)
業務粗利益	521	459	-11.9%	1,607	1,417	-11.8%
比較可能ベース*			+7.4%			+4.8%
営業費用	(463)	(391)	-15.6%	(1,419)	(1,209)	-14.8%
比較可能ベース*			-0.9%			+0.1%
営業利益	56	49	-12.5%	179	187	+4.5%
比較可能ベース*			+59.5%			+37.9%
グループ当期純利益	63	61	-3.2%	15	218	x14.5
うちプライベートバンキング	16	42	x2.6	66	130	+97.0%
うちアセット マネジメント	39	21	-46.2%	(92)	71	NM
うち SG SS & ブローカー	8	(2)	NM	41	17	-58.5%

プライベートバンキング、グローバルインベストメント マネジメント&サービス部門は、以下の 4 事業により構成されている。

- (i) プライベートバンキング事業（ソシエテジェネラルプライベートバンキング）
- (ii) ソシエテジェネラル セキュリティーズ サービス事業（SGSS）
- (iii) ブローカー事業（ニューエッジ⁽¹⁾）
- (iv) アセットマネジメント事業 {アムンディ⁽¹⁾、TCW(2013 年 2 月 6 日付で売却) }

2013 年第 3 四半期のグローバルインベストメント マネジメント&サービス部門のグループ当期純利益への寄与は、不利な市場環境の中、前年同期並となった。

当部門の業務粗利益は前年同期比 7.4%*増の 4 億 5,900 万ユーロに拡大した。営業費用は前年同期を 0.9%*下回る 3 億 9,100 万ユーロとなった。その結果、営業総利益は前年同期比約 2 倍*の 6,800 万ユーロに膨らんだ。2013 年第 3 四半期の当部門のグループ当期純利益への寄与は、前年同期の 6,300 万ユーロに対し、6,100 万ユーロであった。

2013 年の年初来 9 カ月間の業務粗利益は前年同期比 4.8%*増の 14 億 1,700 万ユーロとなった。同年初来 9 カ月間の当部門のグループ当期純利益への寄与は 2 億 1,800 万ユーロとなり、2012 年第 2 四半期に計上したのれん代評価損 2 億ユーロを控除した前年同期の寄与は 2 億 1,500 万ユーロであった。

プライベートバンキング事業

2013 年第 3 四半期のプライベートバンキング事業はストラクチャード商品を中心に堅調な事業活動を展開した。このような好業績が奏効し、業務粗利益率は 2012 年第 3 四半期の 83bp から 108bp(99bp⁽²⁾) へと改善した。2013 年 9 月末の当事業の運用資産残高は 839 億ユーロとなった。この運用資産残高には、フランスとアジアを主なけん引役とする第 3 四半期の 8 億ユーロに及ぶ資金流入、7 億ユーロのプラスの「市場」効果、1 億ユーロのプラスの「為替」効果による寄与が含まれている。一方で、10 月 1 日付の日本における事業売却が 22 億ユーロに及ぶマイナスの「構造変化」の効果として織り込まれている。プライベートバンキングは 10 月にプライベートバンカー インターナショナル誌から「アウトスタンディング ウェルス マネージャー アンド トラスト プロバイダー」に選出された。

当事業の第 3 四半期の業務粗利益は前年同期比 16.0%⁽²⁾増の 2 億 2,700 万ユーロに拡大した。営業費用は前年同期比横ばいの 1 億 5,600 万ユーロに留まった。2013 年第 3 四半期の営業総利益は 7,100 万ユーロ（前年同期：2,400 万ユーロ）に膨らんだ。第 3 四半期に 2 件の融資案件に係る 1,500 万ユーロの引当金の繰入を計上したにもかかわらず、当事業のグループ当期純利益への寄与は 4,200 万ユーロ（前年同期：1,600 万ユーロ）であった。

⁽¹⁾ニューエッジの株式持ち分 50%の取得とアムンディの株式持ち分 5%の売却に係る単独交渉が 2013 年 11 月 7 日に開始された。

⁽²⁾ 2012 年第 3 四半期の 1,700 万ユーロの引当金戻入による経常外利益の控除後

2013 年の年初来 9 カ月間の業務粗利益は前年同期比 16.4%⁽²⁾増の 6 億 6,300 万ユーロであった。営業費用は前年同期比 3.2%*増の 4 億 7,700 万ユーロとなり、年初来 9 カ月間のプライベートバンキング事業のグループ当期純利益への寄与は 2012 年初来 9 カ月間の 6,600 万ユーロから 1 億 3,000 万ユーロに増加した。

ソシエテジェネラルセキュリティーズサービス (SGSS)、ブローカー事業 (ニューエッジ)

セキュリティーズサービス事業の預かり資産残高は 2012 年 9 月末比 7.7%増の 3 兆 6,090 億ユーロに拡大した。管理資産残高は同 11.6%増の 5,000 億ユーロに達した。弱気な市場環境が続く中、事業再編にもかかわらず、2013 年の年初来 9 カ月間、ニューエッジは 前年同期比横ばいの安定的な市場シェア (11.9%) を確保した。

2013年第3 四半期のセキュリティーズサービス事業とブローカー事業の収益は、ブローカー事業の収益が低下したため、前年同期比9.7%*減の2 億2,400 万ユーロとなった。これらの事業では営業効率改善への取り組みを継続させ、営業費用は前年同期比4.6%*減の2 億2,600万ユーロに縮小した。グループ当期純利益への寄与は200 万ユーロのマイナスとなった。

2013 年の年初来 9 カ月間の業務粗利益は前年同期比 8.1%*減の 7 億 3,400 万ユーロとなった。営業費用は 4.7%*減の 7 億 600 万ユーロに減少し、当事業のグループ当期純利益への寄与は 1,700 万ユーロだった。

アセットマネジメント事業

アムンディの寄与は、2013 年第 3 四半期が 2,200 万ユーロ (2012 年第 3 四半期 : 2,600 万ユーロ)、2013 年の年初来 9 カ月間が 7,500 万ユーロ (2012 年初 9 カ月間 : 8,700 万ユーロ) となった。

6 - コーポレート センター

(単位：百万ユーロ)	2012 年 第 3 四半期	2013 年 第 3 四半期	増減 (%)	2012 年 1-9 月期	2013 年 1-9 月期	増減 (%)
業務粗利益	(892)	(435)	+51.2%	(759)	(1,738)	NM
比較可能ベース*			+53.0%			NM
営業費用	(68)	(48)	-29.4%	(150)	(150)	-0.0%
比較可能ベース*			-28.4%			+0.7%
営業総利益	(960)	(483)	+49.7%	(909)	(1,888)	NM
比較可能ベース*			+51.3%			-95.0%
引当金繰入額	(2)	(188)	x94.0	(23)	(410)	x17.8
営業利益	(962)	(671)	+30.2%	(932)	(2,298)	NM
比較可能ベース*			+32.5%			NM
グループ当期純利益	(937)	(429)	+54.2%	(1,030)	(1,237)	-20.1%

コーポレートセンターには以下の項目が含まれる。

- グループの不動産ポートフォリオ、オフィス、その他の土地建物
- 銀行株および産業株の株式ポートフォリオ
- グループの財務機能、部門横断的なプロジェクトに関連する特定の費用、ラインボイスされないグループの特定費用

2013 年第 3 四半期のコーポレートセンターの業務粗利益は前年同期の 8 億 9,200 万ユーロの損失から 4 億 3,500 万ユーロの損失に改善した。この中に計上されるグループの金融債務の再評価額は 2 億 2,300 万ユーロの損失（前年同期：5 億 9,400 万ユーロの損失）となった。

2013年第3四半期の営業費用は前年同期の6,800万ユーロに対して4,800万ユーロだった。

2013年第3四半期の営業総利益は、4億8,300万ユーロのマイナスであった。上記の経常外項目を修正再表示した営業総利益は2億6,000万ユーロのマイナスとなり、これは主にグループが現在保有している過剰流動性に係る追加費用によるものである。このような費用の発生はコーポレートセンターがグループの財務機能を担っていることに起因する。

引当金繰入純額は、業務訴訟問題に係る約2億ユーロの引当金の積み増しを行ったため、2012年第3四半期の200万ユーロに対し2013年第3四半期1億8,800万ユーロとなった。

2013年第3四半期のコーポレートセンターの当期純損益は前年同期の9億3,700万ユーロの損失に対し4億2,900万ユーロの損失となった。

2013年の年初来9カ月間の営業総利益は、前年同期の9億900万ユーロの損失に対し、18億8,800万ユーロの損失となった。経済活動と関係ない項目および経常外項目(財務情報の基準となる事項の第8項を参照)を修正再表示した営業総利益は7億600万ユーロの損失であった。同年の年初来9 カ月間のグループ当期純利益への寄与は、前年同期の10億3,000万ユーロのマイナスに対し、12億3,700万ユーロのマイナスだった。

7 - 2013/2014 年財務情報開示日程

2013 年度財務情報開示日程

2014 年 2 月 12 日	2013 年第 4 四半期および 2013 年通期決算の発表
2014 年 5 月 6 日	2014 年第 1 四半期の発表
2014 年 5 月 20 日	年次総会

本文書にはソシエテジェネラルグループの目標・戦略に関する予測・意見が含まれています。これらの予測は、一般事項と特別事項（特別の定めのない限り、主に、欧州連合が採択している国際財務報告基準（IFRS）に準拠した会計原則・方法の適用、および既存のブルデンシャル規制の適用）の両方を含む、一連の前提に基づいています。

本情報は、特定の競争・規制環境下における複数の経済前提に基づくシナリオに則して作成されました。

当グループは以下を行うことができない場合があります。

- 当グループの事業に影響をもたらす可能性のある全てのリスク、不透明要因またはその他要因を予測すること、およびそれらが当グループの業務に与える可能性のある影響を評価すること。

- リスクまたは複合リスクにより、実際の業績が本文書に記載されている予測とどの程度異なるかを正確に判断すること。

これらの予測は実現しない可能性があります。投資家の皆様におかれましては、本文書が提供する情報に基づいて投資上の決定をされる際には、当グループの業績に影響をもたらす可能性のある不透明要因やリスク要因を考慮されるようお勧めします。

特に明記しない限り、ランキングは内部資料によるものです。

8 - 付属書類 1 : グループの主要指標

連結損益計算書

(単位：百万ユーロ)

	2012年 第3四半期	2013年 第3四半期	増減 (%)		2012年 1-9月期	2013年 1-9月期	増減 (%)	
業務粗利益	5,397	5,728	+6.1%	+14.3%*	17,980	17,049	-5.2%	-0.3%*
営業費用	(3,976)	(3,939)	-0.9%	+5.1%*	(12,287)	(11,914)	-3.0%	+1.7%*
営業総利益	1,421	1,789	+25.9%	+41.6%*	5,693	5,135	-9.8%	-4.7%*
引当金純繰入額	(897)	(1,094)	+22.0%	+31.9%*	(2,621)	(3,007)	+14.7%	+27.0%*
営業利益	524	695	+32.6%	+60.2%*	3,072	2,128	-30.7%	-29.8%*
その他資産の損益	(481)	(7)	+98.5%		(488)	441	NM	
持分法適用会社純利益	43	33	-23.3%		104	109	+4.8%	
のれんの減損	0	0	NM		(450)	0	+100.0%	
法人税	119	(91)	NM		(622)	(516)	-17.0%	
当期純利益	205	630	x3.1		1,616	2,162	+33.8%	
うち少数株主持分	115	96	-16.5%		355	309	-13.0%	
グループ当期純利益	90	534	x5.9	-1.5%*	1,261	1,853	+46.9%	-8.4%*
グループ税引後ROTE	0.2%	5.0%			4.1%	6.1%		
期末時点のTier 1比率					12.0%	13.5%		

* グループ編成変更および為替相場の変動による影響を除いたベース

主力事業部門別税引後純利益

(単位：百万ユーロ)

	2012年 第3四半期	2013年 第3四半期	増減 (%)	2012年 1-9月期	2013年 1-9月期	増減 (%)
フランス国内ネットワーク	351	308	-12.3%	1,037	883	-14.9%
国際リテールバンキング	112	84	-25.0%	(74)	222	NM
専門金融サービス&保険	179	205	+14.5%	509	594	+16.7%
コーポレート&インベストメントバンキング	322	305	-5.3%	804	1,173	+45.9%
プライベートバンキング、グローバルインベストメントマネジメント&サービス	63	61	-3.2%	15	218	x14.5
うちプライベートバンキング	16	42	x2.6	66	130	+97.0%
うちアセットマネジメント	39	21	-46.2%	(92)	71	NM
うちSG SS&ブローカー	8	(2)	NM	41	17	-58.5%
主力事業部門	1,027	963	-6.2%	2,291	3,090	+34.9%
コーポレートセンター	(937)	(429)	+54.2%	(1,030)	(1,237)	-20.1%
グループ	90	534	x5.9	1,261	1,853	+46.9%

連結貸借対照表

資産の部 (単位: 十億ユーロ)	2013年9月30日	2012年12月31日	増減 (%)
現金および中央銀行預金	57.9	67.6	-14%
損益勘定を通じて公正価格で測定された金融資産	498.4	484.0	+3%
ヘッジ目的デリバティブ	12.6	15.9	-21%
売却可能金融資産	132.6	127.7	+4%
銀行預金	97.7	77.2	+27%
顧客貸出金	337.8	350.2	-4%
リース債権および類似契約	27.7	28.7	-3%
金利リスクをヘッジしたポートフォリオの再評価差額	3.2	4.4	-27%
満期保有目的金融資産	1.0	1.2	-17%
税金資産	6.5	6.2	+6%
その他資産	53.6	53.6	0%
売却目的保有非流動資産	0.5	9.4	-95%
繰延利益配分	0.0	0.0	n/s
持分法適用子会社および関連会社への投資	2.1	2.1	-1%
有形および無形固定資産	17.4	17.2	+1%
のれん	5.2	5.3	-3%
資産の部合計	1,254.4	1,250.9	0%

負債の部 (単位: 十億ユーロ)	2013年9月30日	2012年12月31日	増減 (%)
中央銀行預金	6.3	2.4	x 2,6
損益勘定を通じて公正価格で測定された金融負債	433.1	411.4	+5%
ヘッジ目的デリバティブ	10.9	14.0	-22%
銀行預金	106.1	122.0	-13%
顧客預金	350.4	337.2	+4%
証券形態の債務	121.4	135.8	-11%
金利リスクをヘッジしたポートフォリオの再評価差額	4.1	6.5	-38%
税金負債	1.2	1.2	+2%
その他負債	58.0	58.2	0%
売却目的保有非流動負債	1.0	7.3	-87%
保険会社の責任準備金	95.6	90.8	+5%
引当金	4.0	3.5	+14%
劣後債務	7.6	7.1	+7%
株主資本	50.9	49.3	+3%
非支配持分	4.0	4.3	-8%
負債の部合計	1,254.4	1,250.9	0%

9 - 付属書類 2 : 財務情報の基準となる事項

1- 2013 年 9 月 30 日に終了した当グループの連結決算は 2013 年 11 月 6 日に取締役会において承認された。

2013 年 9 月 30 日に終了した 9 カ月間に関する財務情報は、この日付において適用されており、欧州連合が採択している、国際財務報告基準（IFRS）に準拠した方法により作成されている。本財務情報は、国際会計基準（IAS）第 34 号「中間財務報告」により定められている中間財務報告を構成するものではない。ソシエテ ジェネラルの経営陣は、2013 年通期の連結財務諸表を公表する予定である。

国際会計基準（IAS）第 19 号（改訂版）の実施に伴い、2012 年度決算の数値は修正再表示されているため、前年度の修正再表示後の数値を発表した。

2-グループ ROE は、IFRS 基準によるグループの平均株主資本に基づいており、(i)株主資本の部に直接計上された未実現または繰り延べキャピタルゲインもしくはキャピタルロス（転換準備金を除く）、(ii)超劣後債、(iii)株主資本として認識された永久劣後債、を除外し、(iv)超劣後債および修正再表示された永久劣後債に係る支払利息を控除したうえで算出している。また、ROEの算出に使用したグループ当期純利益は、超劣後債に係る当期分の税引き後支払利息、および2006年以降は、超劣後債および修正再表示された永久劣後債に係る税引き後支払利息（2013年9月末は7,900万ユーロ）を除外したものである。

2012 年 1 月 1 日より、事業間の資本配分では期初時点で 9%のリスクウェイトを適用する（従来は 7%）。それに伴い、既に公表された四半期情報の配分資本に関連するデータの修正を実施した。

同時に、標準的資本報酬率は各事業の過去の収益に対する複合効果が中立的になるよう調整した。

3-普通株 1 株当たり利益を算出する上で、「グループ当期純利益」を以下の項目に係る税引き後支払利息において修正した（利益の場合は削減し、損失の場合は追加）。

- (i) 超劣後債（2013 年第 3 四半期は 6,500 万ユーロのマイナス。2013 年年初来 9 か月は 1 億 9,000 万ユーロのマイナス）
- (ii) 株主資本として認識された永久劣後債（2013年第3四半期は1,400万ユーロのマイナス。2013年初来9か月は4,300万ユーロのマイナス）

したがって、普通株 1 株当たり利益は、修正後の当期純利益を平均発行済み株式数から自己株式を控除した数字で除して求める。ただし、(a) トレーディング目的で保有する自己株式、および (b) 流動性契約に基づき保有する自己株式は平均発行済み株式数に含まれる。

4-純資産は、以下を除くグループ株主資本より構成される (i) 超劣後債 (53 億ユーロ)、従来は負債に分類されていた永久劣後債 (15 億ユーロ)、(ii) 超劣後債および永久劣後債に係る支払利息。ただし、トレーディング目的で保有する自己株式および流動性契約に基づき保有する自己株式の帳簿価額は含まれている。有形純資産は、資産の正味のれん代および持分法適用のれん代を調整する。1 株当たり純資産価値または 1 株当たり有形純資産価値の算出に使用した株式数は、2013 年 9 月 30 日現在の発行済み株式数から自己株式および金庫株を控除したものである。ただし、(a)トレーディング目的で保有する自己株式、および(b)流動性契約に基づき保有する自己株式は含まれている。

5- ソシエテジェネラルグループのコア Tier 1 資本とは、Tier 1 資本から Tier 1 に算入可能なハイブリッド商品の残高およびバーゼル II に基づく控除率を差し引いたものである。この控除率とは、コア Tier 1 から Tier 1 資本に算入可能なハイブリッド商品を差し引いたものと、コア Tier 1 資本との割合に相当する。

2011 年 12 月 31 日以降、コア Tier 1 資本とはバーゼル II 基準の Tier 1 資本から Tier 1 に算入可能なハイブリッド資本を差し引き、規制に定められている Tier 1 の控除を適用したものである。

6- 当グループのROTE は有形資本を基準に算出し、累積平均帳簿資本（当グループの持分）、資産の正味のれん代の平均および持分法適用会社の保有株式に関するのれん代の平均などは控除する。ROTE の算出に使用した当期純利益は、支払利息、超劣後債に係る当期分の税引き後支払利息（当期分の第三者に支払った発行手数料および超劣後債の発行プレミアムに係る割引料、超劣後公社債の償還プレミアムを含む）、当期に株主資本として認識された永久劣後債に係る税引き後支払利息（当期分の第三者に支払った発行手数料および永久劣後債の発行プレミアムに係る割引料を含む）を除外したものである。

7-資金調達済バランスシート、預貸率および流動性準備金

資金調達済バランスシートは、保険子会社の寄与を控除し、また、デリバティブ、現先取引、調整勘定を控除した後の当グループのバランスシートを表している。資金調達済バランスシートは以下を反映するために修正再表示された：a) 従来「顧客預金」に分類されていた、現先取引に基づき顧客に引き渡した有価証券および資産（取引先のSGユーロCTの、2013年第3四半期は30億ユーロ相当の残高の控除後）の「現先取引および有価証券の貸借」への再分類；b) 資金調達済バランスシートでの、保険子会社の資産および債務の詳細な修正再表示；c) 国際会計基準（IAS）第39号の改訂で定める要件に従い、2008年に貸付・売掛債権に再分類された原金融資産の再統合；d) 従来「顧客貸出」に分類されていた金融専門会社のオペレーショナルリース固定資産の「長期資産」への再統合。

資金調達済バランスシートにおける欧州中央銀行への貸出は、非常に短期間であることに加えて、経済的には中央銀行の現金と見なされていることから、銀行間資産から分離され、中央銀行の現金預金に分類された。2013年第1四半期末時点の貸出残高は140億ユーロおよび2013年第2四半期末時点の貸出残高は120億ユーロ、さらに2013年第3四半期末時点の貸出残高は60億ユーロだった。

当グループの**預貸率**は、それぞれ定義されている顧客貸出および顧客預金の比率により算出されている

2013年第3四半期末時点の流動資産のバッファまたは**流動性準備金**は1,370億ユーロだった。流動性準備金は中央銀行への預金純額580億ユーロ、および主に「HQLA」資産（高品質な流動資産）と呼ばれている流動性カバレッジ比率(LCR)の対象である、中央銀行での利用可能な資産790億ユーロ（利用可能、割引後）により構成されている。全体では、これらの資産は短期残高（無担保短期債および銀行間の債務）の129%に相当する。2012年9月30日時点では、流動資産のバッファ総額は1,420億ユーロ（2012年12月31日：1,330億ユーロ）で、中央銀行への預金730億ユーロ（2012年12月31日：650億ユーロ）および利用可能な資産（割引後）690億ユーロ（2012年12月31日：680億ユーロ）により構成されていた。全体では、これらの資産は短期残高の100%（2013年12月31日：101%）に相当していた。

また、即座に取引可能な資産は 310 億ユーロ（2012 年 9 月 30 日：140 億ユーロ、2012 年 12 月 31 日：180 億ユーロ）だった。

8 – 経済活動と関係ない項目、経常外項目、およびレガシー資産

経済活動と関係ない項目とは金融債務の再評価に相当する。これら項目、および修正再評価されているその他の項目、2013年第3四半期、2012年第3四半期、2013年の年初来9ヶ月間および2012年の年初来9カ月間詳細は以下のとおり。

Q3 13	業務粗利益	営業費用	その他	引当金純 繰入額	営業利益	
レガシー資産	61	(22)		(154)	(82)	コーポレート&インベストメント バンキング
金融債務の再評価	(223)				(146)	コーポレートセンター
訴訟問題に対する引当金				(200)	(200)	コーポレートセンター
CVA / DVA の影響	(8)				(6)	コーポレート&インベストメント バンキング
減損損失&キャピタルロス			(8)		(8)	コーポレートセンター
合計	(170)				(442)	グループ
Q3 12	業務粗利益	営業費用	その他	引当金純 繰入額	営業利益	
レガシー資産	(94)	(11)		(14)	(82)	コーポレート&インベストメント バンキング
SG CIB 主力事業のリバレッジ 削減	(84)				(58)	コーポレート&インベストメント バンキング
金融債務の再評価	(594)				(389)	コーポレートセンター
TCW の減損損失& キャピタルロス			(92)		(92)	コーポレートセンター
Geniki の減損損失& キャピタルロス			(380)		(130)	コーポレートセンター
その他減損損失& キャピタルロス			(13)		(13)	コーポレートセンター
合計	(772)				(764)	グループ
9M 13	業務粗利益	営業費用	その他	引当金純 繰入額	営業利益	
レガシー資産	135	(52)		(320)	(169)	コーポレート&インベストメント バンキング
金融債務の再評価	(1,215)				(797)	コーポレートセンター
NSGB 持分の売却に伴うキャ ピタルゲイン			417		377	コーポレートセンター
TCW 売却に伴う調整			24		21	コーポレートセンター
訴訟問題に対する引当金				(400)	(400)	コーポレートセンター
CVA / DVA の影響	(178)				(126)	コーポレート&インベストメント バンキング
Piraeus 株持分の売却に伴うキ ャピタルゲイン	33				21	コーポレートセンター
減損損失&キャピタルロス			(8)		(8)	コーポレートセンター
合計	(1,225)				(1,081)	グループ

9M 12	業務粗利益	営業費用	その他	引当金純 繰入額	営業利益	
レガシー資産	(263)	(39)		(167)	(324)	コーポレート&インベストメント バンキング
SG CIB 主力事業のリバレッジ 削減	(469)				(324)	コーポレート&インベストメント バンキング
金融債務の再評価	(569)				(373)	コーポレートセンター
ギリシャソブリンのエクスポ ージャー				(23)	(16)	コーポレートセンター
Tier 2 債務の買戻し	305				195	コーポレートセンター
減損損失&キャピタルロス			(511)		(261)	コーポレートセンター
減損損失&キャピタルロス			(200)		(200)	プライベートバンキング、 グローバル インベストメント マネジメント&サービス
減損損失&キャピタルロス			(250)		(250)	国際リテール バンキング
合計	(996)				(1,553)	グループ

注 (1) 表および分析に含まれている数値の合計は、四捨五入の誤差により、公表されている合計の数値と僅かに異なる場合があります。

(2) 当該期間の詳細（英語版）は、以下のホームページでご覧になれます。

グループのホームページ www.societegenerale.com

本リリースの照会先
 ソシエテ ジェネラル証券会社 東京支店
 ソシエテ ジェネラル銀行 東京支店
 広報部 Tel : 03-5549-5580 Fax : 03-5549-5129